

○酒造、酒米に関する年表

赤字は管内の状況、太字は伊丹や灘に関する内容である。

元号・年	西暦	年数	事象	
永禄	12	1569	455	酒の火入れ殺菌の初見（「多聞院日記」に「酒ニサセ了」、室町時代の説あり）
天正	6	1578	446	「諸白」の名初見（「多聞院日記」）大和・正暦寺で諸白の創製はそれより以前
慶長	5	1600	424	伊丹の鴻池善右衛門、効率的に清酒を大量生産する三段仕込み開発
元和	3	1617	407	伊丹が天領となり、幕府天領の蔵所に定められる。（ほか京二条、大阪、高槻）
慶長	19	1634	390	米不作、初の酒造統制令（以降 230 年余りで約 70 回、豊作による統制解除は 6 回）
寛永	21	1644	380	大阪廻船問屋、酒荷だけの積切りで回送（樽廻船の始まり）
明暦	3	1657	367	初めての酒株を設定し、免許者に限り酒造を許す
寛文	6	1666	358	伊丹が五摂家筆頭近衛家の領地になり、酒造業の保護育成が始まる
貞享	4	1687	337	清酒製造の酒造技術書「童蒙（どうもう）酒造記」成立
元禄	10	1697	327	元禄の酒株改め（課税強化）
正徳	2	1712	312	鳥居氏（下野国壬生城）が加東・美濃郡に 28 村 7,261 石余の領地を得る
享保	13	1728	296	松平武元右近将監（陸奥国棚倉城）が加東・美濃郡内に 13,000 石の領地を得る
元文	5	1740	284	伊丹の剣菱、将軍御膳酒に指定される
寛延	2	1742	282	丹羽薫氏（越後国高柳藩）播磨国三草（現加東市上三草）に転封、初代藩主となる 稲の種類の記述に白川、北国、加賀、あちごなどがみられる
宝暦	3	1754	270	宝暦の勝手造り令（豊作による米価下落対策）
天明	3	1783	241	天明の大飢饉
天明	5	1785	239	諸国酒造実績の再調査（天明稼高）。灘目三郷からの江戸入津量 3 6 万樽を数える
天明	6	1786	238	減醸令（げんじょうれい）（諸国の酒造石高を五割にする） 今津での酒造原料としての播磨米の仕入れ量が 6 割あるとの記録
寛政	1	1789	235	幕府、酒造制限を布告酒造高を株高の三分の一に制限、さらに減石の御触書を出す
寛政	6	1794	230	酒造制限を解除し、全額醸造を認める
寛政	11	1799	225	「日本山海名産図会」出版（全 5 巻のうち 1 巻すべてが伊丹の酒造の紹介）
文化	1	1804	220	伊丹の酒造が最盛期（約 6 万石（1,080 万リットル））
文化	3	1806	218	文化の勝手造り令（豊作による米価下落対策）
文化	8	1811	213	勝手造り廃止
天保	7	1837	187	灘五郷の酒造家による買い入れ場所の上申（認定地域の酒米の最も古い史料）
天保	11	1841	183	山邑（やまむら）太左衛門（現：櫻正宗）、宮水を発見（天保 8 年説もあり）
文久	2	1862	162	鳥居米を酒造りに使用していた史料（白鹿酒造）
明治	4	1871	153	清酒（日本酒）・濁酒醸造鑑札収与と収税方法規則を公布
明治	6	1873	151	地租改正法公布、金納制へ
明治	8	1875	149	旧幕時代からの諸雑税を廃止、酒類税則制定（営業税、醸造税の二本建て）
明治	17	1884	140	稲作改良組合の結成
明治	24	1891	133	灘の嘉納治郎左衛門・泉仙介と上久米（原：加東市上久米）集落で村米が始まる
明治	26	1893	131	辰馬悦蔵と市野瀬集落で村米が始まる。
明治	27	1894	130	日清戦争勃発
明治	32	1899	125	酒税が 35.5% を占め、地租を抜いて税収額のトップに、酒造組合規則が制定
明治	36	1903	121	山田穂、雄町（渡船含む）が栽培の主体
明治	37	1904	120	大蔵省醸造試験所設立、日露戦争勃発
明治	38	1905	119	酒造組合法によって法的に酒造組合連合会を設置
明治	44	1911	113	第一回全国新酒鑑評会開催（醸造試験所）
大正	12	1923	101	山田穂と短稈渡船が交配
昭和	5	1930	94	現地試験ほ場設置
昭和	11	1936	88	山田錦品種認定
昭和	14	1939	85	酒類の統制価格実施、第二次世界大戦勃発
昭和	16	1941	83	太平洋戦争開戦（昭和 13 年勃発の日中戦争の戦線拡大）
昭和	19	1944	80	酒造石税を廃止し庫出税のみとなる
昭和	26	1951	73	農産物検査法の制定、酒造好適米の概念の成立
昭和	31	1956	68	地域の酒米生産がほぼ山田錦に絞られる
昭和	37	1962	62	酒類は十種類に分類され、日本酒の級別は特、一、二級となる

○他の酒米産地、酒造地域との比較

(1) 酒米生産地域の比較

全国の生産量で上位 4 品種の生産量第 1 位の県における生産の状況、歴史的経緯などの情報の比較は次表のとおりである。

表 酒米品種の生産状況（全国生産量順）

「品種」 認定年等	全国生産量 生産量 1 位 1 位生産量	生産の状況、歴史的経緯などの情報
「山田錦」 昭和 11(1936) 年	28,168t 兵庫県 16,031t	本書のとおり。兵庫県HP、酒米振興会のHPにも情報が多数。唎酒師やソムリエ協会の資格テキストにも、村米などの詳細な記載がある唯一の品種。
「五百万石」 昭和 32(1957) 年	14,970t 新潟県 7,952t	新潟県のHPでは「越淡麗」（「山田錦」と五万石の交配品種）の専用ページはあるが五百万石はなく、栽培地域や歴史的経緯の記載はない。
「美山錦」 昭和 53(1978) 年	3,742t 長野県 1,847t	長野県のHPに品種解説なく、歴史的経緯も不明。江戸時代には、多数の酒蔵、明治には 1000 を超えた。
「雄町」 約 160 年前 (選抜改良)	2,677t 岡山県 2,555t	「山田錦」の親系統。岡山県や全農岡山県本部のHPに生産地域や歴史の雄町の説明がある。丈が 160cm（「山田錦」130cm）にも及び育てにくいいため、一時は 3 ha ほどにまで生産が激減。

※生産量は、農林水産省令和 4（2022）年産コメ農産物検査結果による。

品種として古い「雄町」は歴史的な経緯や栽培地域の推移なども文献的に整理されているものの、新潟県では、生産量の少ない酒米より、銘柄食用米「新潟県産コシヒカリ」に力点が置かれており、酒米生産の特徴は不明である。

「五百万石」や「美山錦」は「早生」、北陸や長野では「コシヒカリ」が「中生」であり、「五百万石」の単価が主食用米と変わらないことなどから、各農家が組み合わせて、栽培していると類推され、新潟県HPに掲載されている農業生産法人の事例では、水稻作付面積が 26ha のうち、「コシヒカリ」19.3ha、「五百万石」4ha となっている。

(2) 日本酒生産地域の比較

「日本三大酒どころ」といわれる、兵庫県の灘、京都の伏見、広島県の西条に加え、生産量の多い新潟を比較すると下表のとおりである。

認定地域と密接な関係のある灘五郷は歴史や現在のシェアなど、ほかに見られない地域であることがわかる。

表 酒造地域の歴史的経緯の比較（全国生産量順）

地域・シェア等	主な酒造の歴史
「灘五郷」 19 社、6.4 万 k1 酒米シェア 28%	江戸時代中期より、一大酒造地として発展。樽廻船にて運ぶ「下り酒」により、江戸の需要を満たした国内最大の酒造量を現在まで維持している。
「伏見」 21 社、5.0 万 k1 酒米シェア 1%	明暦 3 年(1657)、酒造家数 83 軒に達するも、灘酒の台頭に押され江戸末期には 2 軒にまで減少。明治以降に再興し、現在は全国 2 位の醸造量を誇るも、原料米は他県に頼る。
「新潟県」 84 社、2.8 万 k1 酒米シェア 13%	地主が余剰米から酒造。しかし、江戸への流通はなく、名産物品番付でも記載がない。新潟の酒造業が産業として成り立ったのは明治以降で、現在は小規模な酒蔵が地域ごとに存在し、吟醸酒生産シェアはトップ。
「広島県」 38 社、0.6 万 k1 酒米シェア 3%	広島県西条の酒造が本格化したのは明治以降。明治 30 年(1897)に軟水醸造法を確立し、全国の軟水地域の酒造の近代化に寄与したことが評価されている。

出典：国税庁清酒の製造状況等について(令和 4 酒造年度分)

会社数、製造量は地域のみまたは県全域、酒米シェアは県全体
歴史については、地域の酒造組合 HP 等による。

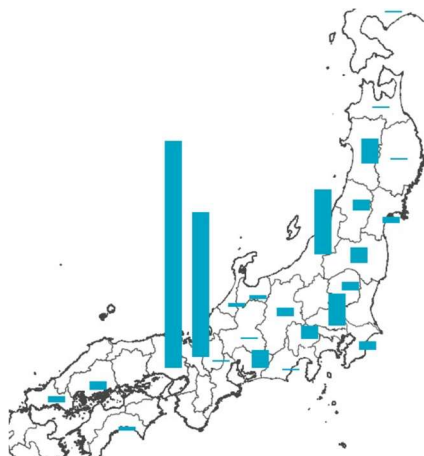


図 都道府県清酒製造状況

(出典：国税庁清酒の製造状況等について(令和 4 酒造年度分))

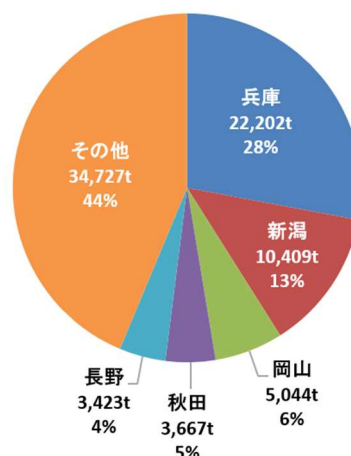


図 都道府県別酒米生産シェア

(出典：農林水産省令和 4 年産コメ農産物検査結果)

○耕地面積の推移と江戸時代の酒造政策

幕藩体制とよばれる近世封建制度は、大名による土地支配と強固な身分制度によって社会を秩序だてるもので、米の生産量を基準として耕地に石高を割り当て、米を年貢の形で徴収することを経済的・財政的基盤とした。

「加賀百万石」のように、米の収穫量が大名のランクに反映され、各藩は農民から徴収した年貢米を江戸や大坂の米市場で現金化し、物資の購入に充てたことから、米は貨幣と同等の価値を持ち、「米本位制」といわれる仕組みとなった。そのため、米を確保することが政策の基本となり、地代率を引き上げることなく地代(年貢)収入を増大させることのできる方法として、各大名は熱心に新田開発に取り組むようになった。くわえて、大河川の治水工事が行われ、それまで氾濫原で耕作に適さなかった平野が農地となった。これらにより、1600年に 200万町歩だった農地面積は、1700年には 280万町歩強と約四割増えた。

これらを背景に、米価格の変動を防ぐため、米の作柄に応じた酒造制限が行われた。なお、幕末までに凶作による制限(減醸令など)は約70回、豊作による解除(勝手造り令)は6回行われている。

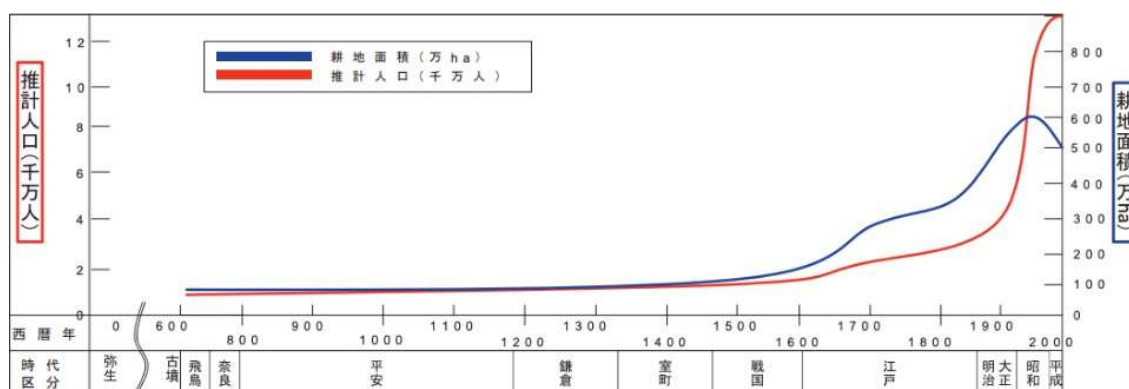


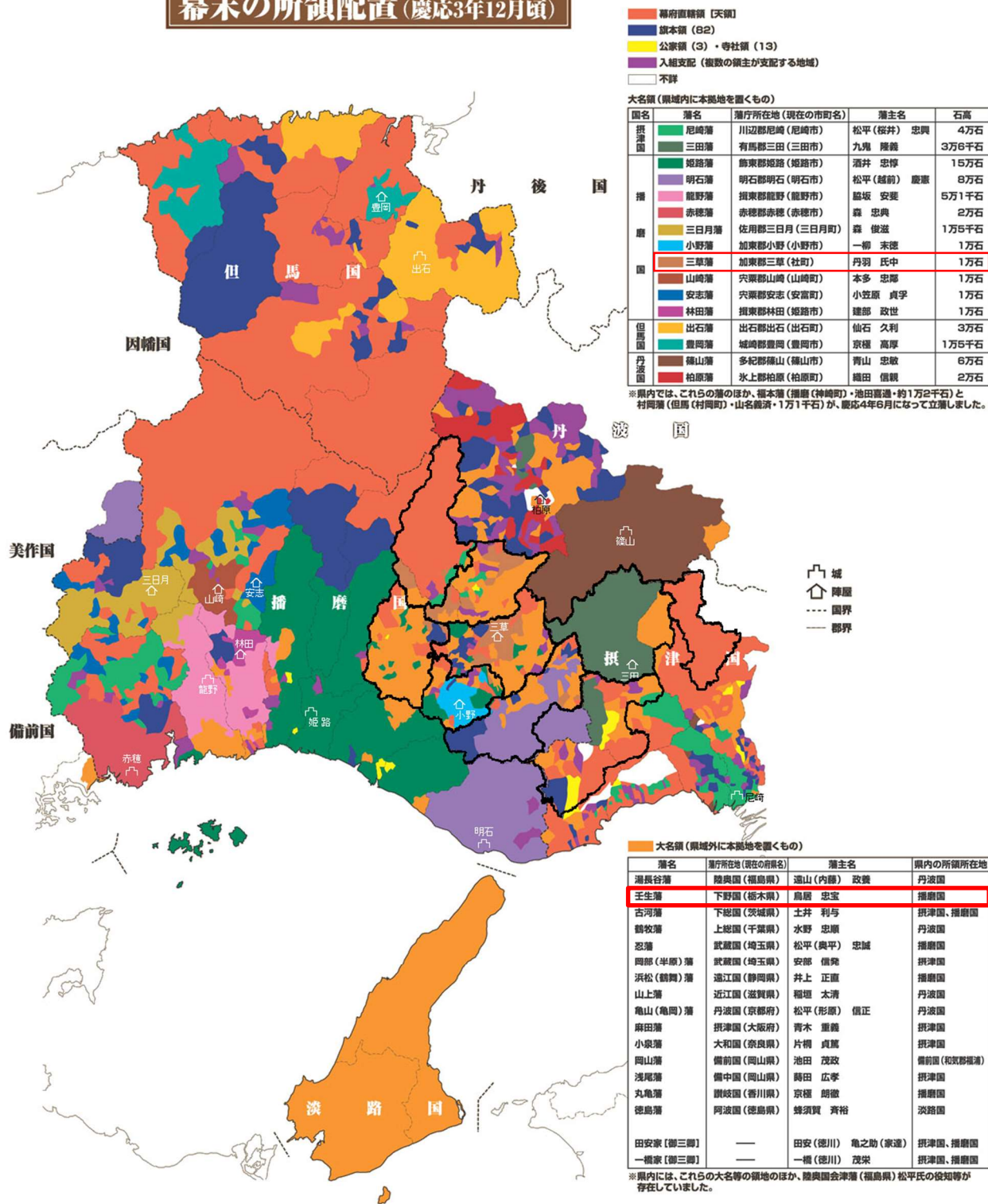
図 我が国の人口と耕地面積の推移

((一社) 農業農村整備情報総合センターHP)

○幕末の所領配置図（現代の兵庫県域）

薄いオレンジ色は県域外に本拠を置く諸大名領であり、摂津国、丹波国、播磨国には複数の遠国大名領が存在し、複雑な統治が行われていたことがわかる。

幕末の所領配置（慶応3年12月頃）



○温室効果ガスや生物多様性に関する国の政策

(1) 環境省の定める温室効果ガス排出・吸収量の算定方法

環境省が示す農業分野における温室効果ガス排出・吸収量算定方法では、化学肥料の量に排出係数を乗じるものとされており、施肥量に比例して排出量が増加する。

2. 排出・吸収量算定方法

2.1 排出・吸収量算定式

化学肥料の施肥からの N_2O 排出量は、2006 年 IPCC ガイドラインの Tier 2 法に従い、作物種別の化学肥料施用量に作物種別の N_2O 排出係数を乗じて求めた各作物種からの N_2O 排出量を合計することにより算出している。

対象としている肥料は、硝化抑制剤を含まない通常の化学肥料と硝化抑制剤入り化学肥料に分けて算定する。

$$E = \sum_{i,j} (F_{SNij} \times EF_{lij}) \times 44/28$$

E : 農用地の土壌への化学肥料の施肥に伴う N_2O 排出量 [kg- N_2O /年]

i : 作物種 (水稻、茶、その他の作物)

j : 肥料の種類 (硝化抑制剤含まず、硝化抑制剤入り)

F_{SNij} : 作物種 i の農用地土壌に投入された化学肥料 j の施用量 [kg-N/年]

EF_{lij} : 作物種 i の化学肥料 j を投入した場合の排出係数 [kg- N_2O -N/kg-N]

2.2 排出係数

排出係数 (EF_{lij}) (表 1) は、施用された窒素量当たりの N_2O 排出量である。

硝化抑制剤を含まない化学肥料については、Akiyama ら (2006) ¹から設定した、水稻、茶、その他の作物の 3 種類に分類した我が国独自の N_2O 排出係数を使用している。水稻と茶以外の作物は、作物間で排出係数に有意な差がなかったため、この 3 種類で排出係数を設定している。

硝化抑制剤入り化学肥料は、硝化抑制剤を含まない化学肥料の N_2O 排出係数と硝化抑制剤入り合成肥料を投入した際の N_2O の削減率から設定している。硝化抑制剤入り合成肥料を投入した際の N_2O の削減率は、Akiyama ら (2010) ²におけるジシアングジアミド入り肥料による N_2O 削減率 (26~36%) の下限値である 26%と設定した。なお、水稻については湛水され硝化が起きにくいことから、硝化抑制剤入り合成肥料が施用される可能性がほとんどないため、排出係数は設定しない。

表 1 化学肥料の施肥からの N_2O 排出係数 (EF_{lij}) [kg- N_2O -N/kg-N]

作物種	排出係数 (硝化抑制剤含まず)	排出係数 (硝化抑制剤入り)
水稻	0.31%	-
茶	2.9%	2.1% [=2.9%×(1-0.26)]
その他の作物	0.62%	0.46% [=0.62%×(1-0.26)]

(出典) Akiyama ら (2006)、Akiyama ら (2010)

図 我が国の温室効果ガスインベントリにおける温室効果ガス排出・吸収量の算定方法より抜粋

(2) 農林水産省の定める温室効果ガス排出・吸収量の算定方法

農林水産省では「みどりの食料システム戦略」に基づき、持続可能な食料システムを構築するため、食料システム全体での環境負荷低減の取組や国民理解の醸成に向けて、環境負荷低減の取組の「見える化」を推進している。



図 農産物の環境負荷低減の「見える化」

(出典：農林水産省 HP 概要資料)

「農産物の環境負荷低減に関する評価・表示ガイドライン」(令和6年(2024)3月)に基づき、地球温暖化防止に資する「温室効果ガス削減への貢献」(稲作では中干期間の延長、秋耕によるメタン低減)や、「生物多様性の保全」への取組を、農産物に星の数(1から3)で表示した等級ラベルで分かりやすく表示することで、生産者の環境負荷低減の努力を消費者に伝え、農産物を選択できる環境を整えていくとしている。

上記ガイドラインでは、「生物多様性の保全への配慮」を評価する化学肥料低減・不使用の取組の基準は、化学農薬の成分使用回数、化学肥料の窒素成分量を都道府県が定めた地域の慣行レベルから低減することと定められている。

また、「江の設置等(江、深溝)による湛水場所の確保」が無脊椎動物、両生類、魚類に対し、十分な生物多様性に対する保全効果が認められている。

生物多様性に配慮した農法の保全効果の評価結果(農研機構研究成果)



片山ら(2020)

図 稲作における農法の評価

- ・「江の設置等」の具体的な取組内容

- 概ね幅20cm以上、深さ10cm以上、ほ場区画10aあたり長さ5m 以上を目安とし、1 辺の畦畔に沿って湛水が保たれている溝を設置すること
- ほ場と連結され生物が行き来できる状態であること
- 中干し期間中、湛水すること

以上のことから、窒素成分量の低減が「生物多様性の保全」への取組として確立されている事が確認できる。また、「おいて」の設置は「江の設置等」と同等と考えられるため、生物多様性に資すると判断できる。

○冬期湛水による効果

冬期湛水を行うほ場においては、水性ミミズ類（イトミミズ）の土壌摂食・排泄・移動によって、水田土壌表層は攪拌され、土壌養分が消化されることにより作物に吸収されやすくなるほか空隙による田面水への養分放出が増加し、次のような効果が得られる。

① 雑草抑制効果（除草剤削減効果）

イトミミズが土壌の摂食・排泄することによって表層に土壌を移送することにより、雑草の種子がやわらかい「トロトロ層」の下に埋没するため、発芽が抑制され、一定の除草効果が発現する。

② 化学肥料削減効果：

冬から水を張ることで、稲刈りの後にほ場に残した稲株などの有機物がイトミミズ類や水中の微生物に分解され、肥料分として有効利用できるようになるため、化学肥料の施肥量が削減できる。

③ 機械作業の削減効果：

「不耕起栽培」のほ場では、稲わらが鋤き込まれることなく、土壌・表面で分解・腐朽するが、「不耕起栽培＋冬期湛水」のほ場では、イトミミズの土壌移送により、前年の秋に表面に散布された稲わらが数センチの部分に埋没するため、稲わらを鋤き込むための機械作業の回数を減らすことができる。

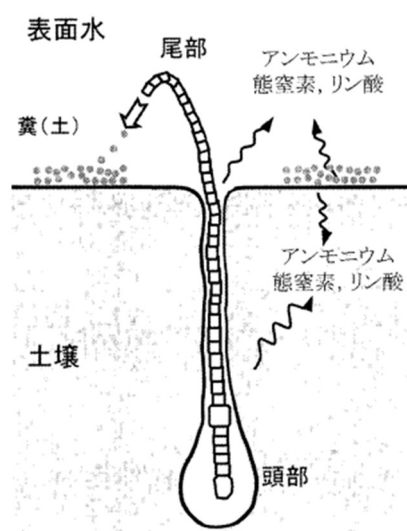


図 イトミミズの土壌摂食・排泄による土壌攪拌（「冬期湛水・有機栽培水田の土壌動物：イトミミズの生態と機能」）

○生物多様性リスト

(1) 農作物（認定地域で栽培されているもの）

番号	作物名	分類項目名	番号	作物名	分類項目名
1	わら	わら	50	せり	葉茎菜類
2	主食用米	米	51	うど	葉茎菜類
3	酒造好適米	米	52	タラの芽	葉茎菜類
4	飼料用米	米	53	みずな	葉茎菜類
5	加工用米、米粉用米	米	54	たかな	葉茎菜類
6	小麦	麦類	55	みぶな	葉茎菜類
7	六条大麦	麦類	56	モロヘイヤ	葉茎菜類
8	はだか麦	麦類	57	ハーブ	葉茎菜類
9	そば	雑穀	58	だいこん	根菜類
10	黒大豆	豆類（乾燥したもの）	59	かぶ	根菜類
11	白大豆	豆類（乾燥したもの）	60	にんじん	根菜類
12	小豆	豆類（乾燥したもの）	61	ごぼう	根菜類
13	スイートコーン	果菜類	62	さといも	根菜類
14	えだまめ（黒大豆）	果菜類	63	やまのいも	根菜類
15	えだまめ（白大豆）	果菜類	64	キクイモ	根菜類
16	さやえんどう	果菜類	65	しょうが	根菜類
17	そらまめ	果菜類	66	ヤーコン	根菜類
18	さやいんげん	果菜類	67	メロン	果実的野菜
19	うすいえんどう	果菜類	68	すいか	果実的野菜
20	ズッキーニ	果菜類	69	いちご	果実的野菜
21	きゅうり	果菜類	70	しいたけ	きのこ類（栽培）
22	かぼちゃ	果菜類	71	なめこ	きのこ類（栽培）
23	なす	果菜類	72	ぶなしめじ	きのこ類（栽培）
24	トマト	果菜類	73	りんご	果実
25	ピーマン	果菜類	74	ぶどう	果実
26	にがうり	果菜類	75	もも	果実
27	オクラ	果菜類	76	びわ	果実
28	ししとう	果菜類	77	うめ	果実
29	とうがらし	果菜類	78	かき	果実
30	とうがん	果菜類	79	くり	果実
31	まくわうり	果菜類	80	いちじく	果実
32	キャベツ	葉茎菜類	81	キウイフルーツ	果実
33	はくさい	葉茎菜類	82	ゆず	果実
34	ほうれんそう	葉茎菜類	83	サンショウ	果実
35	ねぎ	葉茎菜類	84	ブルーベリー	果実
36	たまねぎ	葉茎菜類	85	チューリップ	花き（切り花）
37	にら	葉茎菜類	86	きく	花き（切り花）
38	しゅんぎく	葉茎菜類	87	ゆり	花き（切り花）
39	にんにく	葉茎菜類	88	コスモス	花き（切り花）
40	レタス	葉茎菜類	89	ダリヤ	花き（球根）
41	非結球レタス	葉茎菜類	90	シクラメン	花き（鉢ものの類）
42	ブロッコリー	葉茎菜類	91	あじさい	花き（鉢ものの類）
43	こまつな	葉茎菜類	92	葉ぼたん	花き（花き苗類）
44	アスパラガス	葉茎菜類	93	ひまわり（景観）	花き（その他の花き）
45	ふき	葉茎菜類	94	茶（生葉）	工芸農作物（食用）
46	みょうが	葉茎菜類	95	菜種	工芸農作物（食用）
47	しそ	葉茎菜類	96	ゴマ	工芸農作物（食用）
48	たけのこ	葉茎菜類	97	ばれいしょ（じゃがいも）	いも類
49	もやし	葉茎菜類	98	かんしょ（さつまいも）	いも類

※加東農林振興事務所調べ、生産物分類（2024年設定）の分類項目順

(2) 哺乳類

番号	科名	和名	学名	環境省 レッドリスト	兵庫県版 レッドリスト	版	神戸市	西脇市	三木市	小野市	三田市	加西市	加東市	猪名川町	多可町
1	トガリネズミ	ニホンジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>		注	2017				○	○		○		
2	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>		調	2017	○	○		○	○			○	○
3		コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>		調	2017								○	
4	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>		調	2017			○					○	○
5		ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>		調	2017	○							○	
6		テングコウモリ	<i>Murina hilgendorfi</i>		調	2017								○	
7	クマ	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>	LP	注	2017		○	○		○	○	○	○	○
8	リス	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>		A	2017	○				○				
9	ネズミ	ニホンモモンガ	<i>Pteromys momonga</i>		A	2017	○								
10		スミスネズミ	<i>Eothenomys smithii</i>		調	2017	○								

EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧I I類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群

※兵庫県版レッドリストのランク指定について (2)～(12)に適用

ランク区分	内容
Aランク	環境省レッドデータブックの絶滅危惧I類に相当 兵庫県において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種
Bランク	環境省レッドデータブックの絶滅危惧II類に相当 兵庫県において絶滅の危機が増大している種
Cランク	環境省レッドデータブックの準絶滅危惧に相当 兵庫県において存続基盤が脆弱な種
要注目種	近減少が著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種
地域限定貴重種	兵庫県全域で見ると貴重とはいえないが、県内の特定の地域においてはA、B、C、要注目のいずれかのランクに該当する程度の貴重性を有する種であるとともに、「学術的に特に貴重とみなされる個体群」、「生物地理学的に重要な意味を持つ個体群」、「保全上重要な単位とみなされる個体群」として識別される種
要調査種	環境省レッドデータブックの情報不足に相当兵庫県において評価するに足るデータがない種

(3) 鳥類

番号	科名	和名	学名	環境省 レッドリスト	兵庫県版 レッドリスト	版	神戸市	西脇市	三木市	小野市	三田市	加西市	加東市	猪名川町	多可町
1	キジ	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>		注	2013	○							○	○
2	カモ	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	VU	B	2013	○					○			
3		マガン	<i>Anser albifrons</i>	NT	C	2013	○			○		○			
4		コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>		C	2013				○		○			
5		オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>		B	2013				○		○			
6		オンドリ	<i>Aix galericulata</i>	DD	B	2013	○		○		○	○	○	○	
7		アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>		注	2013	○				○				
8		シマアジ	<i>Anas querquedula</i>		C	2013	○								
9		トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	VU	C	2013	○		○	○	○	○	○		
10		アビ	<i>Gavia stellata</i>		調	2013	○								
11	アビ	シロエリオオハム	<i>Gavia pacifica</i>		調	2013	○								
12		コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	CR	A	2013	○		○	○	○	○	○	○	○
13	サギ	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	NT	A	2013	○								
14		ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU	A	2013	○				○				
15		ササゴイ	<i>Butorides striata</i>		C	2013	○	○	○	○	○	○			
16		アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>		注	2013	○								
17		チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	NT	C	2013	○		○	○	○	○			
18	トキ	ヘラサギ	<i>Platalea leucorodia</i>	DD	注	2013	○								
19	クイナ	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>		調	2013	○					○			
20		ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	NT	B	2013	○		○	○	○				
21	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	NT	A	2013	○								
22	アマツバメ	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>		B	2013	○								
23	チドリ	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>		C	2013	○								
24		イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>		B	2013	○	○	○	○	○	○	○		○
25		シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	VU	A	2013	○								

26	セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	VU	B	2013	○										
27		ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>		B	2013	○										
28		アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>		B	2013	○										
29		オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	NT	B	2013	○										
30		チュウジシギ	<i>Gallinago megala</i>		B	2013	○										
31		タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>		B	2013	○		○	○	○					○	
32		オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>		B	2013	○										
33		オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>	VU	B	2013	○										
34		ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	VU	B	2013	○										
35		ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	VU	B	2013	○										
36		アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>	VU	B	2013	○										
37		コアオアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>		B	2013	○										
38	シギ	アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>		B	2013	○				○						
39		タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	VU	B	2013	○		○	○							
40		ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>		B	2013	○										
41		イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>		C	2013	○		○	○	○	○	○	○	○	○	
42		ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>		B	2013	○										
43		オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>		B	2013	○										
44		ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>		B	2013	○										
45		ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>		B	2013	○										
46		サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>		B	2013	○										
47		ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	NT	C	2013	○							○			
48		キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>		B	2013	○										
49		エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>		B	2013	○										
50	ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>		調	2013	○		○								
51	タマシギ	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	VU	B	2013	○		○						○		
52	ツバメチドリ	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	VU	B	2013	○										
53	カモメ	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	VU	B	2013	○										
54		クロハラアジサシ	<i>Chlidonias hybrida</i>		調	2013	○										
55	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	NT	A	2013	○		○	○	○	○	○			○	
56		ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	NT	B	2013	○		○	○						○	
57		チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	EN	A	2013	○		○				○				
58		ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>		C	2013	○	○	○	○			○				
59		ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		B	2013	○						○				
60	タカ	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	NT	C	2013	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61		オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	NT	B	2013	○		○	○	○	○	○			○	
62		サンバ	<i>Butastur indicus</i>	VU	B	2013	○		○	○						○	
63		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>		B	2013	○	○	○	○	○	○	○			○	
64		イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>	EN	A	2013	○										
65		クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	EN	A	2013	○										
66		オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>		B	2013	○										
67		コノハズク	<i>Otus sunia</i>		A	2013	○										
68	フクロウ	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>		B	2013	○		○				○				
69		トラフズク	<i>Asio otus</i>		B	2013	○										
70		コミズク	<i>Asio flammeus</i>		B	2013	○		○								
71	ヤツガシラ	ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>		調	2013	○										
72		アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>		B	2013	○										
73	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>		注	2013	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74		ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>		B	2013	○	○	○	○		○					
75	ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	EN	A	2013	○		○	○							
76		アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>		B	2013	○		○	○				○			
77	キツツキ	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>		C	2013	○		○	○	○		○		○		
78		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>		C	2013	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
79		コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>		C	2013	○				○			○			
80	ハヤブサ	チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>		C	2013	○										
81		ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	VU	B	2013	○		○	○	○	○	○				
82	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	EN	調	2013	○										
83	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	VU	C	2013	○							○			
84	モズ	アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	EN	B	2013	○										
85	カラス	コクマルガラス	<i>Corvus dauuricus</i>		C	2013	○							○			
86	ツリスガラ	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>		C	2013	○										
87	シジュウカラ	コガラ	<i>Poecile montanus</i>		注	2013	○	○									
88	ムシクイ	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>		B	2013	○		○		○						○
89	センニュウ	シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>		調	2013	○										
90		エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>		調	2013	○										
91	ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>		注	2013	○		○	○							
92		コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>		C	2013	○										
93	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>		B	2013	○										

94	ムクドリ	コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>		注	2013	○		○	○							
95	カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>		C	2013	○				○					○	○
96	ツグミ	マミジロ	<i>Zoothera sibirica</i>		B	2013	○										
97	ヒタキ	コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>		B	2013	○	○			○					○	
98		コルリ	<i>Luscinia cyane</i>		B	2013	○										
99		ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>		A	2013	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
100		ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>		A	2013	○		○	○				○			
101		コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>		C	2013	○		○		○						○
102		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		注	2013	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
103		オジロビタキ	<i>Ficedula albicilla</i>		調	2013					○						
104		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>		注	2013	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
105	イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>		A	2013	○				○			○			
106	セキレイ	ムネアカタヒバリ	<i>Anthus cervinus</i>		調	2013	○										
107	アトリ	ベニヒワ	<i>Carduelis flammea</i>		調	2013	○										
108		オオマシコ	<i>Carpodacus roseus</i>		調	2013	○										
109		イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>		調	2013	○										
110	ホオジロ	ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>		A	2013	○		○	○				○	○		
111		ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>	NT	A	2013	○										
112		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>		A	2013	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
113		クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>		B	2013	○	○			○	○	○	○	○	○	

(4) 爬虫類

番号	科名	和名	学名	環境省レッドリスト	兵庫県版レッドリスト	版	神戸市	西脇市	三木市	小野市	三田市	加西市	加東市	猪名川町	多可町
1	イシガメ	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT	C	2017	○	○		○	○		○	○	○
2	スッポン	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	DD	調	2017	○			○			○		○
3	ヤモリ	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>		注	2017	○			○			○		
4	タカチホヘビ	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>		C	2017	○				○				
5		ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>		注	2017	○								
6	ナミヘビ	ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>		注	2017		○		○			○		
7		シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i>		C	2017	○								

(5) 両生類

番号	科名	和名	学名	環境省レッドリスト	兵庫県版レッドリスト	版	神戸市	西脇市	三木市	小野市	三田市	加西市	加東市	猪名川町	多可町
1	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ	<i>Hynobius kimurae</i>	NT	B	2017	○								○
2		セトウチサンショウウオ	<i>Hynobius setouchi</i>	VU	B	2019	○	○	○	○	○		○	○	○
3		オオサンショウウオ	<i>Andrias japonicus</i>		B	2017	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	イモリ	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT	注	2017	○	○			○			○	
5	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus japonicus</i>		C	2017	○			○					○
6		タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>		C	2017	○						○	○	○
7		ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>		C	2017	○		○	○		○	○		○
8		ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>		C	2017	○				○		○		
9		ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>		C	2017	○	○		○	○		○		
10		ナゴヤダルマガエル	<i>Pelophylax porosus brevipodus</i>	EN	A	2017	○								
11		シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>		C	2017	○	○	○		○		○		
12		モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i>		B	2017	○	○			○				○
13		カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>		C	2017	○				○				

(6) 魚類

番号	科名	和名	学名	環境省レッドリスト	兵庫県版レッドリスト	版	神戸市	西脇市	三木市	小野市	三田市	加西市	加東市	猪名川町	多可町
1	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種	<i>Lethenteron</i> sp.S	VU	B	2017		○		○	○				
2	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	EN	C	2017	○		○	○	○	○	○	○	
3	コイ	ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	NT	B	2017	○	○		○	○		○		
4		アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	NT	C	2017	○	○	○	○	○	○			
5		カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i>		B	2017	○			○	○	○	○		
6		イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	CR	調	2017	○	○		○		○	○		
7		シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	EN	A	2017	○				○				
8		ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	CR	A	2017		○			○				○
9		カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	EN	A	2017	○	○	○	○	○	○			
10		アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>		C	2017		○	○	○			○		
11		カワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>	NT	C	2017		○	○	○	○		○		
12		ゼゼラ	<i>Biwia zezera</i>	VU	調	2017		○	○	○			○		
13	ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	DD	注	2017	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14		ナガレホトケドジョウ	<i>Lefua</i> sp.1	EN	調	2017	○	○			○				○
15	アカザ	アカザ	<i>Liobagrus reinii</i>	VU	地域絶滅種	2017	○	○	○	○	○		○	○	○
16	サケ	サツキマス (アマゴ)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	NT	調	2017	○				○			○	○
17	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	VU	注	2017	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	カジカ	カジカ	<i>Cottus pollux</i>	NT	C	2017		○			○				○
19	ケツギョ	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	EN	C	2017	○				○			○	○
20	ハゼ	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>		C	2017	○				○		○	○	
21		オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>		C	2017	○		○	○					○
22		シマヒレヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BF	NT	調	2017	○	○	○	○		○	○		○

(7) 貝類

番号	科名	和名	学名	環境省レッドリスト	兵庫県版レッドリスト	版	神戸市	西脇市	三木市	小野市	三田市	加西市	加東市	猪名川町	多可町
1	ヤマトニシ	サドヤマトガイ	<i>Japonia sadoensis</i>	NT	注	2014						○	○		○
2	ムシオイガイ	ハリマムシオイ	<i>Chamalycaeus harimensis</i>		A	2014	○								
3	タニシ	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>	VU	C	2014	○	○	○	○	○			○	
4	カワニナ	クロダカワニナ	<i>Semisulcospira kurodai</i>	NT	C	2014	○	○				○	○	○	○
5	エゾマメタニシ	イナバマメタニシ	<i>Bithynia inabai</i>	VU	B	2014			○	○	○	○			○
6		ヒメマルマメタニシ	<i>Gabbia kiusiuensis</i>	VU	C	2014	○		○		○	○			
7		マメタニシ	<i>Parafossarulus manchouricus japonicus</i>	VU	A	2014					○				
8	ホソアシヒダナメクジ	イボイボナメクジ	<i>Granulilimax fuscicornis</i>	NT	A	2014	○					○		○	
9	ヒラマキガイ	ミズコハクガイ	<i>Gyraulus soritai</i>	VU	A	2014					○				
10		クルマヒラマキ	<i>Hippeutis cantori</i>	VU	B	2014	○								
11		カワネジガイ	<i>Camptoceras hirasei</i>	CR+EN	A	2014						○			
12	マキノメガイ	ヒラドマルナタネ	<i>Pupisoma harpula</i>		B	2014					○				
13		マルナタネ	<i>Parazoogenetes orcula</i>		B	2014								○	
14	キバサナギガイ	ナガナタネ	<i>Columella edentula</i>	LP	B	2014								○	
15	キセルガイモドキ	キセルガイモドキ	<i>Mirus reinianus</i>		C	2014	○				○				
16	ベッコウマイマイ	スジキビ	<i>Parakaliella ruida</i>	NT	B	2014								○	
17		カサネシタラ	<i>Sitalina insignis</i>	NT	B	2014									○
18	オオコウラナメクジ	オオコウラナメクジ	<i>Nipponarion carinatus</i>	NT	B	2014	○				○				
19	ナンバンマイマイ	ケハダヒロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis fragilis</i>	NT	B	2014	○		○	○		○		○	
20		ヒロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis oscitans</i>	DD	B	2014	○				○	○	○		○
21		マヤサンマイマイ	<i>Aegista mayasana</i>	VU	A	2014	○								
22	オナジマイマイ	ヌノビキケマイマイ	<i>Aegista nunobikiensis</i>	VU	A	2014	○								
23		クチマカリマイマイ	<i>Aegista cavicollis</i>	NT	B	2014	○								
24		ギュウリキマイマイ	<i>Euhadra eoa gulicki</i>		注	2014	○		○		○				
25	イシガイ	イセノナミマイマイ	<i>Euhadra eoa communisiformis</i>		注	2014	○								
26		ニセマツカサガイ	<i>Inversiunio yanagawensis</i>	VU	A	2014				○	○				
27		オバエボンガイ	<i>Inversidens brandti</i>	VU	A	2014				○	○				
28		マツカサガイ	<i>Pronodularia japonensis</i>	NT	B	2014				○		○			
29		トンガリササノハガイ	<i>Lanceolaria grayana</i>	NT	A	2014				○	○				

